

SYOHEI ニュース 令和6年6月号

病院等経営強化プラン・その2

総合水沢病院



1 役割の明確化

- 総合水沢病院は市の中心位置にある人口密集地域にあり、市立医療施設で最も医療従事者が多い医療施設です。

今後、各施設の中心的役割が期待され、機能の明確化と連携強化を図るため、新医療センターの整備を進めます。

2 機能及び体制

- 軽症急性期から回復期医療を中心とした、市民の多様化する診療需要に対応できる多機能型の診療体制を目指す。
- 総合診療的な視点を有し、病院診療と在宅診療を適切に使い分けながら地域包括ケアシステムの一翼を担う。
- 新興感染症が蔓延した場合に対応できる体制構築を図る。
- 透析患者の受け入れなど、民間が参入しにくい領域の医療を提供する。
- 救急患者の受け入れを継続し、基幹病院である県立胆沢病院の負担軽減を図る。
- 機能強化型訪問看護ステーションへの機能転換について検討します。

3 病床

- 人口減少による患者数を見込み、病床数については 84 床を基本に新医療センターへの移行検討を進める。

病床種別	現状	見直し後
一般病床	121床	80床
地域包括ケア病床	24床	
回復期リハ病床	—	
感染症病床	4床	4床
計	149床	84床

医療機能や医療の質、連携強化等に係る数値目標

指標	単位	R4年度 実績	R5年度 計画	R6年度 計画	R7年度 計画	R8年度 計画	R9年度 計画
医師数	人	10	12	14	14	14	14
入院患者数	人	14,677	18,250	18,880	23,730	25,130	26,530
外来患者数	人	54,448	60,060	60,100	65,200	66,500	68,500
平均在院日数	日	13.5	14.0	15.0	15.0	15.0	15.0
紹介率	%	16.2	20.0	23.0	23.0	23.0	23.0
救急事搬送数	人	692	750	800	800	800	800
救急患者受入数	人	1,155	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
訪問診療件数	件	154	150	165	165	165	165
訪問看護件数	件	5,856	5,200	5,400	5,600	5,800	6,000

※救急患者受入数は救急搬送者数を含まないものとする。

「イワテの風土」 総合水沢病院長 菊池 淳

今や世界的スターであるドジャースの大谷翔平選手は、岩手県奥州市出身であることがほぼ日本中に知れ渡っていると思います。

昨年はメジャーリーグのテレビ中継の中で、米国のアナウンサーが「イワテの宝…」とも叫んでいました。

また今年、ロッテの佐々木朗希選手はコメのCMの中で、（岩手は）逸材を輩出する地域、というような言い方をしていました。そう言えば、水沢はかねてから偉人の街でもあった、とも思い返します。

イワテの風土はこれまで幾人もの才能を輩出してきて、彼らの体格や能力は受け継がれたDNAによるところが大きいのでしょうが、やはり環境因子も重要であると考えられます。

広大な大地で育てられた優良な食材、海や山の恵みを直接享受でき、それらを吸収して育った身体は健康的であり、寒く厳しい冬の気候に耐えつつも穏やかな人間関係に守られながら愚直に一つの方向に突き進む精神性を作り上げる、そんな環境因子がもしかすると考えられるのかもしれない。

いずれにしても我々には次の大谷が生まれるべき環境を維持、さらに開拓していく責任があるような気がします。

大谷翔平選手の成績ボード（R6.5.27 現在）

試合 53 打率 336 本塁打 13 打点 35 盗塁 13

5/6 通算8度目の週間MVPを受賞

ロサンゼルス市、5月17日を「大谷翔平の日」に制定

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。

令和6年5月27日発行 奥州市医療局医師確保推進室

〒023-0053 奥州市水沢大手町 3-1 TEL0197-25-3833

市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。 第50号

奥州市HPの中の「奥州市の先人」コーナー。今回は、Z項発見者「木村栄」をご紹介します。

Z項の発見者 天文学者：木村栄（ひさし）（1870年：M3年～1943年：S18年）

水沢緯度観測所の初代所長 木村栄（ひさし）博士は、『Z項』という地球の緯度変化を計測するための公式を発見した天文学者です。奥州市では、木村博士の業績をたたえ、「Z」の文字を様々な所に使っています。Zホール(奥州市文化会館)やZアリーナ(水沢総合体育館)などがその一例です。



木村博士は、金沢市泉野町に生まれ、金沢の旧制四高を卒業後、東京帝国大学の星学科で天文学を学び、特に星を用いて緯度を決定する手法を身に着けます。また、大学を卒業後も大学院に進学し、岩手県二戸市出身の地球物理学者 田中館愛橘博士に師事します。

大学卒業後、全国各地の磁力測定、緯度観測、皆既日食等の観測を行い、1897年、緯度観測所の敷地を選ぶために初めて水沢を訪れ、現在の緯度観測所の地を選びました。

3年後には、水沢緯度観測所初代所長となり、天体観測を続けます。その頃、地球の自転軸がかすかにふらつくことによって起きる緯度変化について、世界の6カ所(北緯39度8分地点)で共同観測を行うことになり、水沢がその一つに選ばれました。ところが日本の数値は、不揃いが大きく他の観測所に比べ、「約半分信頼度しかない」という評価を下されました。

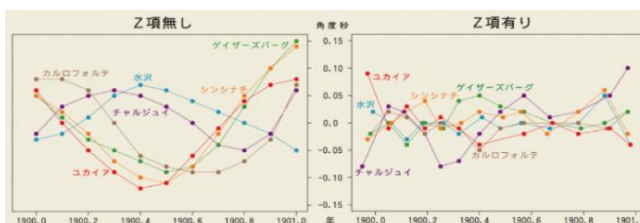
苦境に立たされた木村博士は、恩師の田中館博士の助言を仰ぎ、観測方法等の見直しを行いました。不備な点は見つかりません。

毎日その原因究明を行っていたある日、水沢の観測結果を見つめ、計算を吟味しているうちに、水沢の悪いと言われていた部分が、季節的に変わっていることに気付きました。

緯度の計測は星の動きを定期的に観測することによって導き出されます。従来は星の観測結果をX項Y項という公式で計算していましたが、栄が発見したZ項を加えると、地球上のどこでもこれまで以上に正確に計測できるようになりました。Z項の発見は天文学上の大発見であり、現在もこの公式は使われています。

$$\Delta\phi = x \cos \lambda + y \sin \lambda + Z$$

木村博士は、地球の緯度の変化に関する「Z項」の発見をはじめとする様々な功績が認められ、1911年には第1回学士院恩賜賞、1937年には第1回文化勲章を受賞しています。



このような業績を残している木村博士ですが、どんな国際会議の席上でも、木村博士は愛用のそ



ろばんを常に身近に置き、早朝の書道は欠かさずに続け、「千山」と号して書をよくしていたと言われています。また、テニスや卓球を導入し、さらに宝生流謡曲を広めたといわれています。

木村博士は、緯度観測所を退いた2年後の1943年9月26日、73歳の時に、東京世田谷の自宅で他界しました。

子どものころからいろいろな出会いを大切にしながら、模倣を戒めて創造に務めた結果、栄の才能は星のように輝いたのでした。